

〈参考資料〉

「親子の交通安全意識調査」

もしかかもマップの提供開始に先駆け、大人と子供の危険認識の差異に関して、金沢大学による調査を行いました。金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校(以下「金沢大学附属小学校」)に在学中の小学1年生とその保護者を対象に、アイマークレコーダーを用いて大人と子どもの危険な場所に対する視点の違いを調査、合わせて危険意識についてのWeb アンケートを実施しました。



子どもと親の視点の違いについては85.7%の親子が目線や視点の違いを実感したと回答し、なかでも交通環境における危険個所の相違を実感したのは64.3%と過半数にのびりました。

さらに、当調査を経て、子どもの交通安全を考える上で子どもの視点も考慮するべきと考えた親子は約96.4%を占めました(図1)。こうした差異の改善を目指すために、地域内に存在する危険箇所を地図上で見える化することの重要性については96.5%が重要と回答しました(図2)。

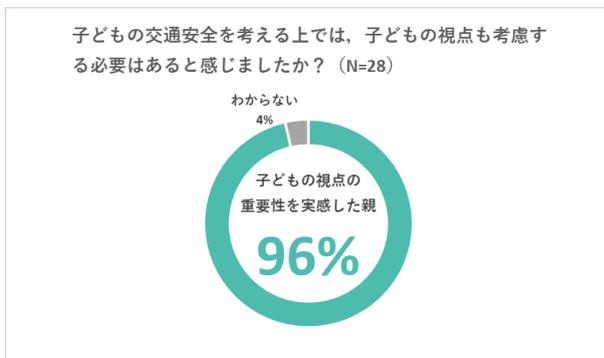


図 1

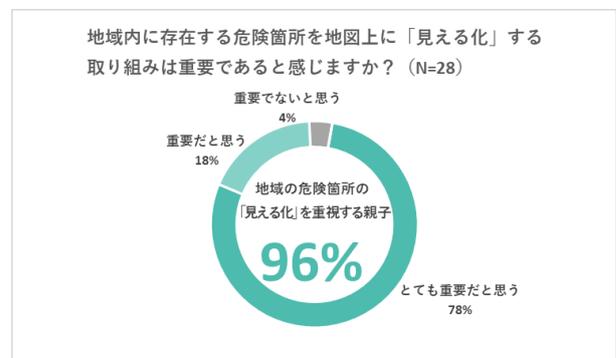


図 2

調査実施概要

実験名称: 子どもの交通安全に関する調査

実験期間: 2022年3月7日-18日

被験者: 金沢大学附属小学校の児童28名(7~8歳の男女)、保護者28名

実験方法: アイマークレコーダーを着用した被験者視点挙動の計測、Web アンケート

森崎裕磨氏

金沢大学 融合研究域 融合科学系 特任助教

専門分野: 防災計画, 交通計画, ビッグデータ解析

金沢大学融合研究域融合科学系 交通・防災まちづくり研究室では、交通計画、防災計画、維持管理計画、まちづくりを研究。研究内容のベースは土木工学だが、ビッグデータ、情報学、医学、保健学、統計学、AI など様々な分野の知識を用いて異分野融合の研究を実施。

「もしかもマップ」開発の目的

(1)「魔の7歳」の解決に向けた親子の安全意識の向上

「もしかもマップ」の開発に際してその有用性を裏付ける目的で、当社と金沢大学が共同で実施した「子どもの交通安全に関する調査」を経て、積年の交通課題である「魔の7歳」の解決のためには子どもと親との危険認識の差異に着目する必要があるという結果が明らかになりました。また、同調査から、危険認識の差異を埋めるためには会話や共通のプラットフォームを用いた相互確認が有効であることもわかりました。調査結果をうけ、「もしかもマップ」は危険個所を投稿する機能に加えて、親子の危険認識の差異を埋める「点検」や「ドリル」機能も搭載し、親子で交通安全に関する会話をしながら安全意識の向上を促し、「魔の7歳」問題の解決に寄与するサービスを目指します。

(2)当社の共創型自動車保険「&e」との連携による「事故のない世界」の実現

当社は2021年11月18日(木)に販売開始した共創型自動車保険「&e(アンディー)」を中核に事故のない世界の実現を目指しています。「&e」ではIoTセンサーおよびGPSをもとに、運転時の急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどの事故につながりやすい危険挙動などのデータを収集しています。将来的に「&e」と「もしかもマップ」を連携させることで、集積した全国の危険個所を運転中のドライバーに通知する機能の実装も検討しています。なお、「&e」および「もしかもマップ」で収集したデータは、プライバシーに最大限配慮し、匿名加工や統計化したうえで活用いたします。

「魔の7歳」について

年齢別の統計として最新*の令和2年度のデータでは、歩行中の成人の交通事故死傷者数が平均470人、歩行中の未成年では平均292人となりました。全年齢の中で、7歳児の歩行中の交通事故死傷者数は717人と際立って多くなっています。この7歳児の歩行中の交通事故死傷者数が突出している状況が、平成6年度以来継続している状況を問題視して、「魔の7歳」との呼称が一般に広がっています。(図1)

また、警察庁が令和4年度に発表した最新*の分析によると、7歳児を含む児童の歩行中の死者・重傷者数は、時間帯別にみると平日の16時～17時台が最多の765人、次いで14時～15時台が677人と、登下校の時間帯に交通事故の発生が集中していることがわかります。(図2)

7歳は小学一年生になる年齢であり、小学校入学を境に登下校ではじめて保護者を伴わずに道路を歩行することになるので、7歳児が交通事故にあいやすくなってしまうと考えることができます。

* 2022年4月27日時点

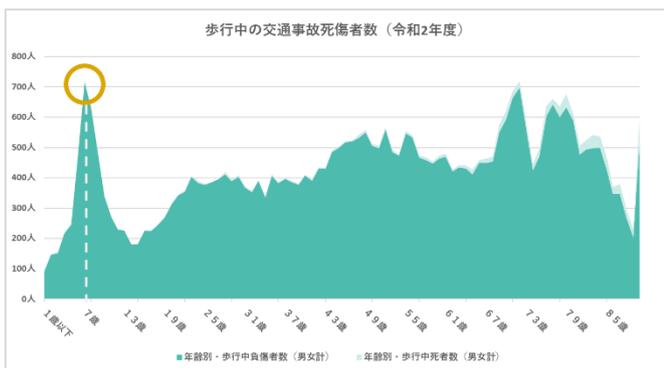


図1

(ITARDA「交通事故統計年報 令和2年度版」より作成)

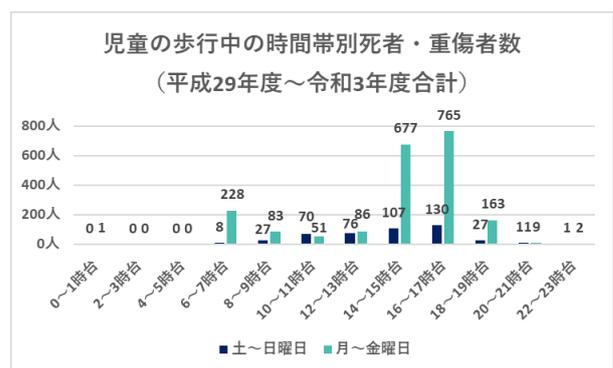


図2

(警察庁「令和4年春の全国交通安全運動の実施について」より作成)

共創型自動車保険「&e」について

「&e(アンディー)」とは 2021 年 11 月 18 日にイーデザイン損保が販売を開始した自動車保険です。一人ひとりのお客さまに寄り添い、事故にあうお客さまを一人でも減らすために、IoT センサーをスマートフォンに連携させるなど最新テクノロジーを活用し、お客さまにかつてない体験を提供する全く新しい保険です。

<https://www.e-design.net/>



事故のない世界を目指すプロジェクト「SafeDriveWith」について

当社は、「事故のない世界を目指す」という趣旨に賛同いただけるお客さまや地方自治体、企業とともに、交通安全に関するデータを活用した事故削減のプロジェクト「SafeDriveWith」に取り組んでおります。

渋谷区と共同で地域の事故予防を促進

「&e」の IoT センサーから得られる急ブレーキ多発地点など、さまざまな運転データを個人情報を含まない形で加工・統計化したうえで、渋谷区が構築を進める「シティダッシュボード」に連携することで、渋谷区内の危険個所を見える化し、事故の予防を目指しています。

渋谷区内における危険個所の収集及び統計作業を随時進めており、交通安全啓発に有益な示唆が得られた段階でシティダッシュボードへのデータ連携を開始する予定です。また、渋谷区とは今回のダッシュボードへの連携を起点に、事故のない社会実現に向けたデータのさらなる活用方法を継続的に協議、実践してまいります。